

4 企業会計収入支出予算の概要

企業会計は、地方公営企業法に定められた諸事業と採算性のある事業について、条例の定めるところにより設置するものですが、本県では、公共の福祉を増進するため、病院、水道、工業用水道および電気の4事業の経営を行っています。

本年度の企業会計予算の総額は、第15表のとおりで、前年度の716億1,115万9千円に比べ、39億1,737万4千円、5.5%の減となっています。

第15表 企業会計予算の状況

(単位：千円、%)

会計名	平成19年度 当初予算額 (A)	平成18年度 当初予算額 (B)	比較		
			増 (A)	減 (B)	伸び率 (A) / (B)
病院事業	21,910,170	23,219,136	△1,308,966		△5.6
水道事業	27,825,019	30,441,483	△2,616,464		△8.6
工業用水道事業	13,290,928	13,180,806	110,122		0.8
電気事業	4,667,668	4,769,734	△102,066		△2.1
合計	67,693,785	71,611,159	△3,917,374		△5.5

企業会計収入支出予算について、その概要を説明します。

(1) 病院事業会計

平成16年度から18年度までの3カ年の県立病院のビジョンと経営方針及び具体的な行動に向けた取組を示す「三重県病院事業中期経営計画」を1年延長する形で運営を進め、県立病院としての役割・機能を果たし、県民から求められる良質な医療を継続的に安定供給できるように努めます。

このため、平成14年度から導入している新しいマネジメントシステム（バランス・スコアカード）を一層活用し、全職員参画型の経営を推進することで、病院ごとの経営の自立化を図り、目標達成に努めます。

ア. 業務の予定量

(ア) 病床数 1,286床

(イ) 患者数

	年 間	1日平均
入院患者数	381,372人	1,042人
外来患者数	390,359人	1,593人

イ. 収益的収支 収入 18,344,968千円 資本的収支 収入 1,981,159千円
支出 19,019,984千円 支出 2,890,186千円

平成19年度の主要事業としましては、平成20年度からの次期中期経営計画を策定するほか、臨床研修医等医師の研修環境の改善、及び不足する看護師の確保や離職防止対策の強化に取り組み

ます。

また、志摩病院においては、新しい外来棟の供用開始により、耐震性や狭隘化等の問題を解消するとともに、災害時対応の機能強化に努めます。

収益的収入は、入院収益、外来収益などの医業収益149億3,752万9千円、他会計補助金、負担金などの医業外収益34億743万9千円です。

一方、収益的支出は、職員給与費95億9,670万7千円、薬品費などの材料費36億2,905万9千円、事業運営経費29億6,765万円、施設・器械備品などの減価償却費12億9,962万6千円等の医業費用176億628万4千円、支払利息などの医業外費用9億9,698万4千円、及び退職給与引当金などの特別損失4億1,671万6千円です。以上の結果、収支差引で、6億7,501万6千円の当期純損失を計上しております。

次に、資本的収入は、県費負担金10億3,215万9千円、企業債9億4,900万円です。

一方、資本的支出は、志摩病院の外来診療棟建築工事等のための病院増改築工事費で5億903万5千円、各病院の医療機器購入など資産購入費8億946万4千円、企業債償還金14億3,768万7千円、投資有価証券購入費1億100万円及び看護師修学資金貸与費3,300万円です。

(2) 水道事業会計

水道事業は、津市、松阪市を対象とした北中勢水道（中勢系：施設能力1日最大給水量140,216m³）、四日市市、桑名市及び鈴鹿市を含む3市4町を対象とした北中勢水道（北勢系：施設能力1日最大給水量137,700m³）、伊勢市、松阪市、鳥羽市及び志摩市を含む4市4町を対象とした南勢志摩水道（施設能力1日最大給水量169,150m³）による給水を行い、上水の安定した供給に努めています。

また、北勢地域の水需要に対応するため、長良川河口堰を水源とした北勢広域水道拡張事業を、また、伊賀地域の水需要に対応するため、川上ダムを水源とした伊賀広域水道建設事業をそれぞれ実施します。

ア. 業務の予定量

年間総給水量 78,262,332m³

1日平均給水量 213,249m³

イ. 収益的収支	収入	11,751,635千円	資本的収支	収入	11,748,248千円
	支出	10,433,518千円		支出	17,391,501千円

収益的収入は、給水収益111億9,395万7千円とその他営業収益を合わせた営業収益111億9,827万8千円及び一般会計補助金4億1,888万3千円等の営業外収益5億5,212万3千円が主なものです。

収益的支出は、人件費、修繕費、減価償却費等の営業費用80億6,409万5千円と支払利息等の営業外費用23億6,742万3千円が主なものです。以上の結果、収支差引13億1,811万7千円の利益を計上しました。

次に、資本的収入は、伊賀広域水道建設事業等に充当する企業債62億3,770万円や一般会計出資金35億9,399万1千円及び国庫補助金18億4,652万2千円が主なものです。

資本的支出は、伊賀広域水道建設事業等の建設改良費95億2,760万7千円と企業債等の償還金78億6,389万4千円です。

ウ. 主な建設改良計画

建設改良事業としては、既設の北勢水道の改良事業のほか、北勢広域水道拡張事業、伊賀広域水道建設事業を実施することとしています。

主な建設改良事業

(単位：千円)

事業名	計画年度	総事業費	うち本年度 事業費	備考
業務設備改良工事	H19	1,703,449	1,703,449	既設設備の改良
北勢水道改良事業	H19	1,222,285	1,222,285	既設施設の改良
北勢広域水道拡張事業	H10～22	35,736,002	2,392,830	目標日量47,600m ³
伊賀広域水道建設事業	H10～20	27,690,786	3,959,805	目標日量28,750m ³

(3) 工業用水道事業会計

工業用水道事業は、北伊勢工業用水道（1日給水能力830,000m³）、中伊勢工業用水道（1日給水能力33,000m³）、松阪工業用水道（1日給水能力38,500m³）及び多度工業用水道（1日給水能力10,000m³）により、工業用水の供給をしています。

また、県下の工場に良質な工業用水を安定的に供給するため、的確な水処理や配水運用を行うとともに、北伊勢工業用水道事業等において、施設の計画的な改良や整備を行います。

ア. 業務の予定量

- (ア) 給水会社数 90社
- (イ) 年間総給水量 222,110,580m³
- 1日平均給水量 606,859m³

イ. 収益的収支 収入 6,588,139千円 資本的収支 収入 1,972,132千円
支出 6,072,755千円 支出 7,218,173千円

収益的収入は、給水収益58億2,123万2千円とその他営業収益を合わせた営業収益65億2,627万1千円と受取利息等の営業外収益4,798万4千円が主なものです。

収益的支出は、人件費、修繕費、減価償却費等の営業費用52億7,490万3千円と支払利息等の営業外費用7億5,385万2千円が主なものです。以上の結果、収支差引5億1,538万4千円の利益を計上しました。

次に資本的収入は、一般会計出資金14億5,546万2千円や企業債3億80万円及び北伊勢工業用水道

改良事業等に充当する国庫補助金2億1,202万1千円が主なものです。

資本的支出は、北伊勢工業用水道改良事業等の建設改良費28億3,157万7千円と企業債等の償還金43億8,659万6千円です。

ウ. 主な建設改良計画

建設改良事業としては、北伊勢工業用水道改良事業等を実施することとしています。

主な建設改良事業

(単位：千円)

事業名	計画年度	総事業費	うち本年度 事業費	備考
業務設備改良工事	H19	340,405	340,405	既設設備の改良
北伊勢工業用水道改良事業	H19	1,673,794	1,673,794	既設設備の改良
多度工業用水道改良事業	H19	151,531	151,531	既設施設の更新

(4) 電気事業会計

電気事業は、宮川第1、第2、第3、長、三瀬谷、青蓮寺、大和谷、蓮、青田及び比奈知の10発電所において水力発電を、三重ごみ固形燃料発電所においてRDF焼却・発電をそれぞれ行っています。

平成19年度は、平成16年の台風21号の影響により壊滅的な被害を受けた長発電所の発電設備を取り替えるとともに最大出力を増大させるなど、被災した水力発電所の復旧整備を引き続き進めます。

ア. 業務の予定量

年間販売電力量 350,598,872kWh

イ. 収益的収支 収入 3,470,056千円 資本的収支 収入 231,650千円
支出 3,647,399千円 支出 1,020,269千円

収益的収入は、電力料26億4,958万円等の営業収益26億5,205万6千円、RDF焼却・発電事業の附帯事業収益8億271万1千円及び受取利息1,528万6千円等の営業外収益1,528万9千円です。

収益的支出は、人件費、修繕費、減価償却費等の営業費用21億417万2千円、RDF焼却・発電事業の附帯事業費用11億9,353万6千円及び支払利息等の営業外費用3億4,750万7千円が主なものです。

以上の結果、収支差引1億7,734万3千円の損失を計上しました。

次に、資本的収入は、長発電所改良事業等に充当する国庫補助金2,893万9千円と雑収入1億1,813万円、長期貸付金償還金8,458万1千円です。

資本的支出は、水力発電所災害復旧事業等の建設改良費4億4,683万1千円と企業債の償還金5億7,343万8千円です。

ウ. 主な建設改良計画

建設改良事業としては、既設の設備改良事業のほか、長水力発電所災害復旧事業、川上発電所建設事業等を実施することとしています。

主な建設改良事業

(単位：千円)

事業名	計画年度	総事業費	うち本年度 事業費	備考
水力発電所災害復旧事業	H16～19	941,237	178,715	長発電所
川上発電所建設事業	H11～20	1,678,000	4,374	最大出力1,200kW

一口メモ

- 収益的収支…当該年度の企業の経営活動に伴い発生する収益（収入）とそれに対応する費用（支出）であって、収入は、サービスの提供の対価としての料金収入が主体であって、支出にはサービス提供に要する職員給与費、支払利息、建物等の固定資産の減価償却費等が計上されます。
- 資本的収支…住民に対するサービスの提供を維持するとともに、将来の利用増に対処して、経営規模の拡大を図るために要する諸施設の整備、拡充等の資産の取得に要する経費、施設の取得に要した企業債の元金償還金などの支出と資産の取得に要する企業債等の収入が計上されます。